

東書 一年

## よう日と日づけをおぼえよう

### 第一・二次指導を合わせて(二時間扱い)

#### ○ 本時の目標

- ・ 教科書編集者は、配当漢字の割り振りに苦心している様子が出ている教材である。その工夫を生かし、楽しく語彙を広げたい。

〈区画〉二区画(本文のみ) ▼は読まない

一よむ(音読) 二名ずつ二回 計四名

二とく(読後感の話し合い)

#### ○ 題目(題を板書 話の糸口)

- ・ 曜日と日付が書いてあるのが何?
- ・ (八月のカレンダーの枠を描きつつ)
- ・ 8が9になっても変化がないのはどこ。
- ・ 曜日の欄ですね。一番左に書くのは。
- ・ 日曜日の日を書くが、これは、何と関係あると思うか。(お日様||太陽)
- ・ カレンダーは太陽の動きを元に作ったの。もう一つ、空にあるものを元にして作ったカレンダー(暦)があるの。
- ・ 何だと思う。(月)
- ・ 月を元にした暦は、侍のいた(真田丸の活躍した)時代には使われていたの。
- ・ 残りの曜日は、身の回りにある大事な

物を使っているの。どんな物でしょうか。(火・水・木・金・土)

#### ◎ ひびき

- ・ 昔使っていた暦(月の形の変わり方をもとにした)の言葉が、今も残っている。何だと思うか。(一日||ツキタチ)
- ・ だから、暦の読み方は難しいの。

#### ○ 手引き

- ・ 暦の読み方を書いて勉強します。

三よむ(指示 黙読)(第二次指導に入る)

四かく(視写) ・ 月日を漢字だけ)

一月一日 元日

二月二日

三月三日 ひなまつり 女

四月四日

五月五日 男

六月六日

七月七日 七夕

八月八日

九月九日

十月十日

十二月二十日 おおみそか

八月一八日木

五よむ(板書を音読 指黙読・指音読)

六とく(板書を活用した話し合い)

#### ○ 語義・区分

- ・ 一月一日(元旦 元日)
- ・ 三月三日(ひな祭り 女の子の節句)

- ・ 五月五日(端午の節句 男の子の節句)
- ・ 七月七日(七夕) 仙台の七夕(昔の暦)
- ・ 区分(なし)

#### ◎ 心

- ・ 同じ漢数字で読み方が違う。昔は月の方を、例えば三月のことを弥生とか、五月のことをサツキとか言っていたのでも、新しいカレンダーを使うようになったので「イチ・ニ・サン……」と月に付けたの。

- ・ 日付の方は、昔の言い方が残ったの。月の最初の日を「ツイタチ」といい、それから「ヒ・フ・ミ・ヨ……」という日本で古くから使われている数の数え方を使っているの。

- ・ おまけの話。大晦日を知っているよね。何時ですか。今は、一二月三一日ですが、昔は一二月三〇日でした。月の動きで暦を作ったので三〇日のことをミソカとっていて、一年の最後のミソカなので大晦日です。

- ・ 最後に、今日の日付と曜日をいって。(十一日からは日を二チと読む)

#### ○ 余韻(暦の話は面白いなあ)

七よむ(全員で板書を指音読)

\*最後に暗唱する。